

**留学先国名** : 英国

**留学先学校名** : ダラム大学

**留学期間** : 平成 27年10月1日 ~ 平成 31年6月28日

最初の授業はちゃんと聞き取れるかどうか、それだけが心配で緊張していたことを覚えています。始めてみるとそんな心配は無用で、楽しくも厳しい一年でした。

理系分野の生徒に比べ文系分野は授業時間が短いのですが、それは文系は実験がない代わりに数多くのレポートをこなすためです。1学期の間に4から5つの課題が出て、それぞれが1500から3000単語のもので、書くだけでなく書かすために本や資料を読まなければいけないので、一つひとつをこなすのが大変でした。しかし徐々に慣れていくもので、最後には5000単語のエッセーを書き上げました。単語数に圧倒されますが、必要なことを書くと案外少ないものです。課題はレポートだけではなく、プレゼンテーションやディスカッションのリードなどもあります。プレゼンテーションやディスカッションは総じてクラスメイトや教員から鋭い質問が飛んできてとても活発です。

学業以外では、国際連合サークルという模擬国連をするサークルと柔術部に入っています。国連サークルでは日本以外の国の立場に立って考える機会はこれまでなかったので、とても新鮮で驚きと学びの連続です。サークルなどは良い息抜きになり交友関係も広がるので是非何か入ることをお勧めします。

パーティーなども多いですが、学期末や試験前になるとどれだけ飲むことやパーティーが好きな人たちが図書館にこもり学校中が勉強ムードになるので、やる気を出さざるをえなくなるこの環境はとても素晴らしいと思います。

学校全体の雰囲気として、一つあげられるのは各々が好きなように自己表現をし、自由に生きていることだと思います。国籍、人種、宗教などもそうですが、男女の理系文系の縛りのようなものも日本より緩く、どちらも半数ずついるように感じます。それから日本にはない風潮としていわゆる LGBT と呼ばれる人たちと、精神疾患の可視性がとても高いです。両者ともにサポート態勢が整っていることと、個人レベルでの理解が高いからではないかと思います。また寮ではよく政治的な議論なども勃発しますが、最後にはお互いがお互いの主張を認めて終わります。そうしたことを全てに他者の尊重と自由を感じました。

学業・課外活動共に、自分から進んで何かしないと始まりません。活動的でないといけないわけではなく、視野を広く持ちどんなことでも試してみるの悪いことではないように思います。